

## 令和 2 年度 事業報告書

### 事業の概要

令和 2 年度は、次の事業を実施した。

#### 1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第 35 回日本精神保健会議)」の開催

今年度は、「災害とメンタルヘルス～取り戻そう、つながりと暮らし、そして希望～」をテーマに、例年通り東京有楽町の朝日ホールでの開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染が続いており、理事会での協議により Zoom を利用したオンラインで実施した。

テーマの「災害とメンタルヘルス～取り戻そう、つながりと暮らし、そして希望～」は、昨年企画して中止になったものだが、フォーラムを開催する令和 3 年 3 月が東日本大震災から 10 年の節目となることから、今年度も同じテーマとして、昨年の企画を一部修正して以下のような内容で実施した。

フォーラムは大塚淳子氏が委員長になり、市川宏伸、小幡恭弘、藤井克徳、榎屋二郎の各氏が準備委員として企画した。

なお、本フォーラムは「令和 2 年度健康や命を守る医療の活動」として、公益財団法人 J K A より競輪公益資金の補助を受けて実施した。

#### メンタルヘルスの集い（第 35 回日本精神保健会議）

日 時：令和 3 年 3 月 6 日（土） 13：00～16：00

テーマ：災害とメンタルヘルス

～取り戻そう、つながりと暮らし、そして希望～

内 容：特別講演「災害時のメンタルヘルス不調予防

—東日本大震災後 10 年の福島から—

丹羽真一（福島県立医科大学会津医療センター精神医学特任教授）

シンポジウム 「災害とメンタルヘルス」

犬飼邦明（社会医療法人ましき会益城病院理事長）

香山明美（東北文化学園大学医療福祉学部教授）

榎屋二郎（東京医科大学精神医学分野准教授）

多田伸志（NPO 法人岡山マインド「こころ」代表理事）

矢吹顕孝（NPO 法人岡山マインド「こころ」）

指定発言

千葉昭郎（社会福祉法人燦々会相談支援専門員）

コーディネーター

大塚淳子（帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科教授）

藤井克徳（日本障害者協議会代表・きょうされん専務理事）

参加者：全国から 288 名の申し込みがあり当日は 170 名の方が視聴した。

## 2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健福祉関連団体等と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度はコロナウイルスの感染が終息していないため、オンラインで下記のとおり実施した。

### ●76回精神保健シンポジウム（さいたま）

日 時：令和2年11月28日（土） 13：00～16：00

開催方法：公益社団法人やどかりの里やどかり情報館に講師・スタッフが集合して基調講演・シンポジウムを実施し、Zoom ウェビナーを使用してオンラインで視聴者に配信した。

共 催：公益社団法人やどかりの里 埼玉県共済会鴻巣病院 埼玉県精神障害者家族会連合会 埼玉の精神保健福祉を考える会

テ ー マ：心の危機 孤立しやすい社会を変えよう

1人で抱え込まないで

内 容：基調講演

「統合失調症とは何か？主体性の障害とリハビリテーション」

小島卓也（医療法人社団輔仁会大宮厚生病院副院長  
公益財団法人日本精神衛生会理事長）

：シンポジウム

「つながって生きる」

岡田久実子（埼玉県精神障害者家族会連合会会長）  
稲垣文雄（訪問看護ステーションこころのあい看護師）  
加藤康士（やどかり情報館ピアサポーター）  
石川光男（杜の家ピアサポーター）

：総合討論

コーディネーター

増田一世（公益社団法人やどかりの里理事長）

参 加 者：108名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」183号（令和3年3月15日発行）に収録した。

## 3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

① 180号（令和2年6月15日発行） A5判136頁 2,000部  
特集 災害とメンタルヘルス

- ② 181号（令和2年9月15日発行） A5判126頁 2,000部  
 特集 現代社会の精神分析
- ③ 182号（令和2年12月15日発行） A5判124頁 2,000部  
 特集 ウィズ（with）コロナの“心と社会”を考える
- ④ 183号（令和3年3月15日発行） A5判140頁 2,000部  
 特集 第76回精神保健シンポジウム（さいたま）  
 「心の危機 孤立しやすい社会を変えよう  
 1人で抱え込まないで」

#### 4. 精神保健福祉関係冊子の出版

昨年度に引き続きこころの健康シリーズⅧとして、「国際化の進展とメンタルヘルス」のNo.5～No.8（各B5判8頁）を以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

- ①No.5 日本語を母語としない人たちの精神科診療  
 四谷ゆいクリニック 阿部 裕 著  
 令和2年6月発行 3,000部
- ②No.6 外国人労働者のメンタルヘルス：多文化能力の視点から  
 東京インターナショナルサイコセラピー 小林絵理子 著  
 令和2年9月発行 3,000部
- ③No.7 外国人留学生のメンタルヘルス—実態と課題—  
 JAFSA（国際教育交流協議会）多文化間メンタルヘルス研究会  
 大橋敏子 著  
 令和2年12月発行 3,000部
- ⑤ 8 「生活者」としての在日外国人のこころの健康とその支援  
 長崎県立大学看護栄養学部 李 節子 著  
 令和3年3月発行 3,000部

5. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と精神保健福祉の推進に協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。